

留学に際する教育カリキュラム統合の可能性  
— 摂南大学生によるストモ博士大学での学修を事例として—<sup>1</sup>  
**Kurikulum yang Berkesinambungan antara Perguruan Tinggi di Jepang  
dan di Luar Negeri**  
**: Studi Kasus Kurikulum di Universitas Dr. Soetomo bagi Mahasiswa  
Universitas Setsunan**

浦野崇央 (摂南大学)

**URANO Takao (Universitas Setsunan)**

シシリア・タントリ・スルヤワティ (ストモ博士大学)

**Cicilia Tantri Suryawati (Universitas Dr. Soetomo)**

**< Abstrak >**

Beberapa tahun belakangan ini universitas-universitas di seluruh dunia menjalin kerjasama antar perguruan tinggi dengan ditandai oleh Penandatanganan Nota Kesepahaman (MOU). Berdasar pada MOU, perguruan tinggi tersebut akan saling mengirim dan menerima mahasiswa. Dengan adanya kerjasama, kurikulum pendidikan yang digunakan oleh kedua belah pihak seyogyanya terintegrasi. Tetapi pada kenyataannya perguruan tinggi pengirim dan penerima mahasiswa hampir tidak menggunakan kurikulum dengan pola dwiarah melainkan hanya sepihak saja, maka melalui makalah ini kami akan melakukan penelitian mengenai kemungkinan integrasi kurikulum kedua belah pihak dengan diberlakukannya kurikulum yang berkesinambungan antara Universitas Setsunan, Osaka dengan Universitas Dr. Soetomo, Surabaya- Indonesia.

---

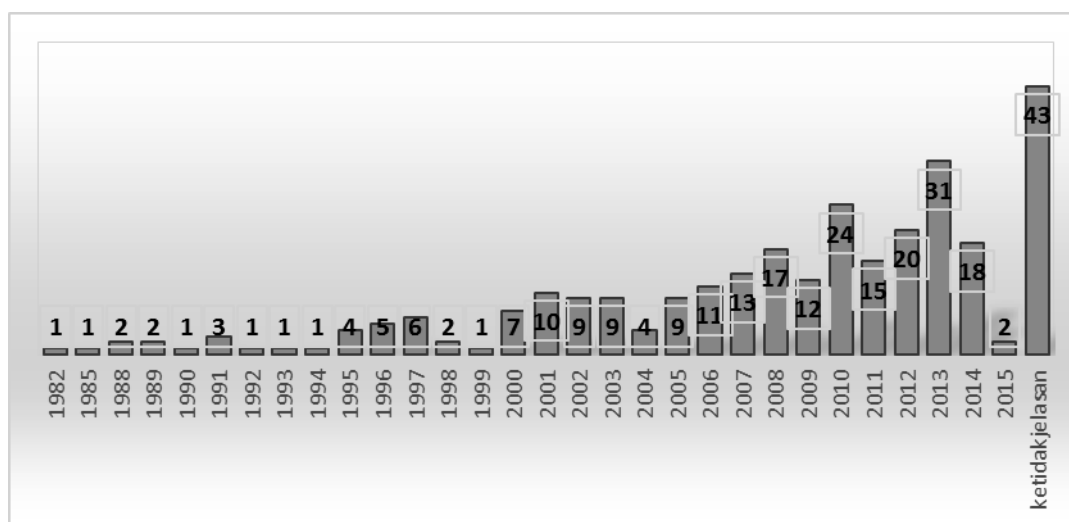
<sup>1</sup> 本論文は、2016年11月19日に愛知県立大学サテライトキャンパスで開催された第47回日本インドネシア学会研究大会において発表した「留学に際する教育カリキュラム統合の可能性—摂南大学生によるストモ博士大学での学修を事例として—」をもとにまとめたものである。  
なお、本研究は JSPS 科研費 JP26370644 の助成を受けたものである。Penelitian ini mendapat hibah dari Grants-in-Aid for Scientific Research (C) JP26370644 yang di keluarkan oleh JSPS KAKENHI (Pemerintah Jepang).

## 1. はじめに

近年、日本の大学は盛んに海外の大学や高等教育機関と連携協定(MOU)を締結しており、学生や研究者の交流事業や共同研究を行っている<sup>2</sup>。

「グラフ1 日本の大学とインドネシアの大学の連携協定推移」は、インドネシアの大学と「学生交流」の連携協定を結んだ日本の123の大学について、連携協定締結年ごとの推移を表したものである。このグラフから明らかなように、特に2000年代に入ってから徐々に連携協定数が増加している傾向が読み取れる。

グラフ1 日本の大学とインドネシアの大学の連携協定推移



123大学の連携協定大学を見てみると、明らかに理系の大学が多い。それはインドネシアの大学から日本の大学の工学部や理学部あるいは医学部等の理科系大学・学部に留学する学生が多いことに起因するものと思われる<sup>3</sup>。

一方、日本の大学からインドネシアへの留学状況を見てみると、基本的にはインドネシア語専攻のある大学からの派遣留学が多い<sup>4</sup>。「表1 インドネシア語教育カリキュラムをもつ大学の連携協定リスト」は、日本の大学のなかでインドネシア語の授業カリキュラムをもつ54大学のうち、インドネシアの大学と連携協定している大学の数を一覧にまとめた表である<sup>5</sup>。

<sup>2</sup> 筆者による2015年の調査によれば、総計782の日本の大学のうち、インドネシアの大学（高等教育機関）と連携協定を結んでいる大学は148大学であり、そのうち83.1%にあたる123大学が「学生交流」事業を行っている[URANO(2015):3-4]。

<sup>3</sup> インドネシアから日本への留学についての分析は、[佐藤(2010):50-96]を参照されたい。

<sup>4</sup> 日本人学生の東南アジアへの留学については、[星野(2014)]および[星野(2015)]が参考となる。

<sup>5</sup> このデータは2008年5月時点でインドネシア語授業カリキュラムを擁する54の大学について、2015年に改めて連携協定数を調べたものであり、現況と異なっている場合があることをお断りしておく。

表1 インドネシア語教育カリキュラムをもつ大学の連携協定大学リスト

大学名 Nama universitas di Jepang	インドネシアの大学との連携協定数 Jumlah universitas mitra
神田外語大学 Kanda University of International Studies	4
京都産業大学 Kyoto Sangyo University	4
上智大学 Sophia University	4
亜細亜大学 Asia University	3
創価大学 Soka University	3
拓殖大学 Takushoku University	3
立命館アジア太平洋大学 Ritsumeikan Asia Pacific University	3
関西学院大学 Kwasei Gakuin University	2
慶應義塾大学 Keio University	2
南山大学 Nanzan University	2
広島経済大学 Hiroshima University of Economics	2
桃山学院大学 St.Andrew's University	2
桜美林大学 J.F.Oberlin University	1
九州国際大学 Kyushu International University	1
摂南大学 Setsunan University	1
大東文化大学 Daito Bunka University	1
天理大学 Tenri University	1
東京農業大学 Tokyo University of Agriculture	1
立教大学 Rikkyo University	1

以上のリストのうち、インドネシア語を専攻言語（主言語）として開設している大学は、神田外語大学、京都産業大学、南山大学、摂南大学、天理大学の5大学である。

本稿においては、それらのうち、摂南大学の場合を事例として、連携協定大学とのインドネシア語教育カリキュラムの実態を明らかにし、今後の課題を提示することとしたい。

## 2. 摂南大学の海外連携大学

摂南大学は現在、海外26大学と連携協定を結んでいる<sup>6</sup>。その中で、インドネシアの大学については東ジャワ州スラバヤのストモ博士大学 Universitas Dr.Soetomo (UNITOMO) と連携協定を締結している。

<sup>6</sup> 摂南大学の海外連携協定大学は、<http://www.setsunan.ac.jp/kokusai/schools.html> を参照。

摂南大学は1975年に大阪府寝屋川市に創立し、2016年12月現在で7学部13学科を擁し、約8,000名の学生が学んでいる。一方、ストモ博士大学は1984年に創設され、8学部17学科を擁する総合大学であり、2016年12月現在、約5,000人の学生が籍を置いている。このように摂南大学とストモ博士大学はほぼ同程度の大学と言える。両大学の連携協定は、摂南大学外国語学部インドネシア・マレー語専攻（1982年開設の国際言語文化学部インドネシア語東南アジア文化コースに端を発する）とストモ博士大学文学部日本語学科（1992年開設）が中心となって運営しており、1997年に学部間協定を結び、3週間の海外語学実習プログラムを導入し、2009年には大学間協定を結び、摂南大学生の半年間ないしは一年間の留学派遣プログラムを行っている。

以下の「表2 ストモ博士大学への留学派遣者数」は、現在までの摂南大学生のストモ博士大学への留学派遣状況をまとめたものである。表から明らかなように、これまでに女子15名、男子14名の計29名が半年ないしは一年間の留学を果たした。

表2 ストモ博士大学への留学派遣者数

Priode (bulan & tahun)	Jumlah mahasiswa (jenis kelamin)	Jangka waktu
September 2009 – Agustus 2010	2 orang (L1,P1)	1 tahun
September 2010 – Maret 2011	3 orang (P3)	6 bulan
September 2010 – Agustus 2011	2 orang (L2)	1 tahun
Maret 2011 – September 2011	1 orang (L1)	6 bulan
Maret 2011 – Januari 2012	1 orang (L1)	1 tahun
Maret 2012 – Agustus 2012	1 orang (P1)	6 bulan
Maret 2012 - Februari 2013	1 orang (P1)	1 tahun
Maret 2013 – Agustus 2013	2 orang (P2)	6 bulan
Agustus 2013 – Feburari 2014	1 orang (L1)	6 bulan
Agustus 2013 – Agustus 2014	1 orang (P1)	1 tahun
Februari 2014 - Agustus 2014	3 orang (P3)	6 bulan
Februari 2014 - Februari 2015	4 orang (L3, P1)	1 tahun
September 2014 - Februari 2015	1 orang (L1)	6 bulan
September 2014 - Agustus 2015	2 orang (L1, P1)	1 tahun
Agustus 2015 - Agustus 2016	1 orang (L1)	1 tahun
Februari 2016 - Agustus 2016	1 orang (L1)	6 bulan
Februari 2016 - Februari 2017	2 orang (L1, P1)	1 tahun
<b>Jumlah</b>	<b>29 orang (L14, P15)</b>	<b>6 bulan: 13 orang 1 tahun: 16 orang</b>

### 3. 摂南大学におけるインドネシア語教育カリキュラム

本項では、摂南大学におけるインドネシア語教育カリキュラムを年次ごとに明らかにしておく。

#### < 1 年次前期 (semester 1) >

- インドネシア語入門 a(1) (Dasar Bahasa Indonesia a(1)) : 1 単位
- インドネシア語入門 a(2) (Dasar Bahasa Indonesia a(2)) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション Ia (Komunikasi Bahasa Indonesia Ia) : 1 単位
- インドネシア語表現法 (Wacana Bahasa Indonesia) : 1 単位
- インドネシア語ボキャブラリー a (Kosa Kata Bahasa Indonesia a) : 1 単位

#### < 1 年次後期 (semester 2) >

- インドネシア語入門 b(1) (Dasar Bahasa Indonesia b(1)) : 1 単位
- インドネシア語入門 b(2) (Dasar Bahasa Indonesia b(2)) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション Ib (Komunikasi Bahasa Indonesia Ib) : 1 単位
- インドネシア語ボキャブラリー b (Kosa kata Bahasa Indonesia b) : 1 単位
- 初級検定インドネシア語 (Tingkat dasar Ujian Kemampuan berbahasa Indonesia) : 1 単位

#### < 2 年次前期 (semester 3) >

- 総合インドネシア語 a(1) (Komprehensif Bahasa Indonesia a(1)) : 1 単位
- 総合インドネシア語 a(2) (Komprehensif Bahasa Indonesia a(2)) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション II a (Komunikasi Bahasa Indonesia II a) : 1 単位
- 旅行インドネシア語 (Bahasa Indonesia untuk Perjalanan) : 1 単位
- 基礎マレー語 a (Dasar Bahasa Melayu a) : 1 単位

#### < 2 年次後期 (semester 4) >

- 総合インドネシア語 b(1) (Komprehensif Bahasa Indonesia b(1)) : 1 単位
- 総合インドネシア語 b(2) (Komprehensif Bahasa Indonesia b(2)) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション II b (Komunikasi Bahasa Indonesia II b) : 1 単位
- 基礎マレー語 b (Dasar Bahasa Melayu b) : 1 単位
- 中級検定インドネシア語 (Tingkat Madya Ujian Kemampuan berbahasa Indonesia) : 1 単位

#### < 3 年次前期 (semester 5) >

- 実践インドネシア・マレー語 a (Praktis Bahasa Indonesia-Melayu a) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション III a (Komunikasi Bahasa Indonesia III a) : 1 単位
- 時事インドネシア・マレー語 (Media Bahasa Indonesia-Melayu) : 1 単位
- 上級検定インドネシア語 (Tingkat Atas Ujian Kemampuan berbahasa Indonesia) : 1 単位

#### < 3 年次後期 (semester 6) >

- 実践インドネシア・マレー語 b (Praktis Bahasa Indonesia b) : 1 単位
- インドネシア語コミュニケーション III b (Komunikasi Bahasa Indonesia III b) : 1 単位
- ビジネスインドネシア語 (Bisnis Bahasa Indonesia) : 1 単位
- プレゼンテーションインドネシア・マレー語 (Presentasi Bahasa Indonesia-Melayu) : 1 単位

#### < 4 年次前期 (semester 7) >

- スペシャリストインドネシア・マレー語 (Spesialis Bahasa Indonesia-Melayu) : 1 単位

#### < 4 年次後期 (semester 8) >

インドネシア・マレー語学研究 (Penelitian Ilmu Bahasa Indonesia-Melayu) : 1 単位

摂南大学のインドネシア語教育カリキュラムの全体的特徴は、以下の通りである。

- 1、それぞれの科目は週 1 回の半期開講となっている。それぞれは 1 単位である。
- 2、入学したての 1 年次前期および後期はインドネシア語の授業を受講するが、2 年次前期からマレー語が学修科目として始まる。
- 3、留学派遣は 2 年次後期を起点とし、半年間あるいは一年間となっている<sup>7</sup>。

次に、個別科目についてその内容をみておきたい。

##### 《インドネシア語入門 a/b(1)(2)》

この授業は、独自テキスト[浦野/山口編(2015)]を用い、週二回をリレー授業として行っており、1 つの課は①文法、②講読、③作文で構成されている。つまり、たとえば接頭辞 ber- の項目 (課) であれば、①で ber- の文法的特徴を学び、②で ber- を使った文章の講読、③で ber- を使った文章の作文を行っている。なお、この一年間の授業でインドネシア語文法の大凡の部分をカバーしており、2 年目以後はいろいろな文体の文章の反復学修となる。

##### 《インドネシア語コムニカシ I a～III b》

この授業はインドネシア人ネイティブ教員が担当しており、基本的には 1 年次配当の I a および I b では一授業内の約 20%、2 年次配当の II a および II b では約 50%、3 年次配当の III a および III b では約 90%程度についてインドネシア語を使用し、行っている。具体的には日常的に使用される会話表現について、状況や場面ごとの反復練習を行っている。

##### 《インドネシア語表現法》

この授業は、インドネシア語の構造を日本語の文法や文章構造と比較しながら学修することを目的としている。インドネシア語を学び始めた学生が当たり前のように使っている日本語を客観的に捉え直す目的もある。

##### 《インドネシア語ボキャブラリー a/b》

この授業では独自テキストとして、2000 単語を収録した『インドネシア語単語集』[浦野/山口編(2012a)]を使用し、登場した単語を使った作文練習や講読練習を行っている。後期 12 月頃には毎年、「ボキャブラリーコンテスト」を実施し、100 問の単語テストを行っている。

##### 《初級～上級検定インドネシア語》

摂南大学では、インドネシア語検定協会主催の「インドネシア語技能検定試験」の受検を義務づけており、卒業時までには C 級取得を目指している。この授業は、その試験でより高い成果を目指すために設けられており、初級で E 級、中級で D 級、上級で C 級の取得を達成目標としている。

##### 《総合インドネシア語 a/b(1)(2)》

この授業は、「インドネシア語入門 a/b(1)(2)」の継続科目に位置づけられる授業で、1 年次に学んだ文法事項を踏まえて、あらゆる媒体・場面のインドネシア語に触れることを目的

<sup>7</sup> 留学を通じては単位互換が可能であり、半年留学の場合は最大 16 単位、一年留学の場合は最大 30 単位が摂南大学の単位として認定される。

としており、独自テキスト[浦野/山口(2012b)]に採録されているものは、手紙、インドネシアの小・中学校教科書、エッセイ、広告、小説、SMS、新聞・雑誌記事など、多岐に渡っている。

#### 《旅行インドネシア語》

2年次前期配当のこの授業では、2年次夏期以後にインドネシアへ旅行あるいは留学に出かけることを想定し、旅行の際に必要なとされる表現を文化の違いを踏まえながら学修する。

#### 《実践インドネシア・マレー語 a/b》

この授業では新聞・雑誌記事、学術論文、詩など、あらゆる文体のインドネシア語を学修する。

#### 《時事インドネシア・マレー語》

この授業では、ニュース記事やラジオニュース、インターネット記事など、時事問題に触れながらインドネシア語を学修する。

#### 《プレゼンテーションインドネシア・マレー語》

この授業は、プレゼンテーション用ソフトを用いてスライドを作成し、あるテーマについて発表（プレゼンテーション）することを目的とする。12月頃には学内で「プレゼンテーションコンテスト」が開催され、その場で成果を披露する。

#### 《ビジネスインドネシア語》

この授業では、履歴書や職務経歴書の書き方に始まり、就業に関わるインドネシア語全般を学修する。日本においては就職活動が3年次頃から始まるため、この授業を通じて、就業に対する動機づけも行う。

#### 《スペシャリストインドネシア・マレー語》

4年間の総決算と位置づけられるこの授業は、より高度で専門的なインドネシア語を学修する。学術論文の読解を通じて奥深いインドネシア語の世界を学ぶことになる。

#### 《インドネシア・マレー語学研究》

この授業は、インドネシアやその周辺に分布するオーストロネシア語族の言語について、歴史や系統、言語分類、文字など、あらゆる言語環境を考察するものである。

以上が摂南大学で開講されているインドネシア語関係科目の全てである<sup>8</sup>。先述したように、摂南大学の場合、留学派遣は2年次後期以後となっている。そこで、2年次後期～3年次後期については留学派遣中の学生がおり、留学中の修得単位は帰国後に単位認定されるため、留学期間中に日本で開講されている授業は受講しないことが多い。そこで、留学派遣先であるストモ博士大学と連携し、日本での学修をインドネシアで補う必要があり、留学といえども、摂南大学の教育カリキュラムに則って学修する必要がある。

そこで、次にストモ博士大学における留学中の教育カリキュラムをみておきたい。

---

<sup>8</sup> 摂南大学では、「基礎マレー語 a/b」が開講されており、2年次以後配当の授業のいくつかは「○○インドネシア・マレー語」といったように、インドネシア語に加えてマレー語も学修することになるが、本稿はインドネシア語学修についてのみを取り上げたものであるため、マレー語科目については割愛した。

#### 4. ストモ博士大学における教育カリキュラム

本項では、ストモ博士大学における外国人留学生向けの教育カリキュラムを挙げることにする。摂南大学の学生が留学するに際しては、半年間あるいは一年間のプログラムに則ることとなっている。よって、以下の教育カリキュラムにおいては、半年留学の場合は「第1セメスター」のみを受講し、一年留学の場合は「第1セメスター」と「第2セメスター」の両方を受け、帰国後に履修した授業に基づく単位認定がなされることになる。

##### 《第1セメスター (Semester pertama)》

Bahasa Indonesia 1: 6 SKS

Percakapan 1: 4 SKS

Wacana 1: 6 SKS

Media Indonesia 1: 4 SKS

Perkantoran 1: 4 SKS

Ejaan yang Disempurnakan: 2 SKS

Pengantar Kebudayaan Indonesia 1: 4 SKS

Penulisan Karya Ilmiah 1: 4 SKS

Studi Lapangan 1: 2 SKS

##### 《第2セメスター (Semester kedua)》

Bahasa Indonesia 2 : 6 SKS

Percakapan 2: 4 SKS

Wacana 2: 6 SKS

Media Indonesia 2: 2 SKS

Perkantoran 2: 2 SKS

Pengantar Kebudayaan Indonesia 2: 2 SKS

Penulisan Karya Ilmiah 2: 4 SKS

Studi Lapangan 2: 4 SKS

まず、「Bahasa Indonesia 1/2」は独自テキストを用いてインドネシア語を総合的に学修する科目であり、摂南大学でいう「総合インドネシア語」あるいは「実践インドネシア・マレー語」にあたる科目である。「Percakapan 1/2」は摂南大学の「インドネシア語コミュニケーション」にあたる。

「Wacana 1/2」はインドネシア語の特徴を踏まえた授業となっており、表現法や文例を学ぶことになる。「Media Indonesia 1/2」は摂南大学の「時事インドネシア・マレー語」にあたる科目であり、新聞や雑誌、インターネット配信ニュース記事などを用いて、時事問題を中心に学修する。「Perkantoran 1/2」は摂南大学における「ビジネスインドネシア語」であり、ビジネスに関わる表現やフレーズを学ぶことになる。「Ejaan yang Disempurnakan」は半年のみの開講であるが、1972年に設定されたインドネシア語正書法について学ぶ授業であり、正しいインドネシア語を再確認するのに有益な授業である。「Pengantar Kebudayaan Indonesia 1/2」はインドネシアの歴史や文化などに焦点を絞って行われる授業である。「Penulisan Karya Ilmiah 1/2」は受講者自身のテーマに基づいた論文を書くための授業であり、テーマの探し方、先行研究の調べ方、論文の書き方など、いわゆるゼミ形式で行われるものである。最後に、「Studi Lapangan 1/2」



は学外における野外実習（各種施設の見学や体験）を踏まえ、事前学習に基づいて行われる授業である。

## 5. 教育カリキュラムの統合

摂南大学から半年間ないしは一年間にわたってストモ博士大学へ留学派遣がなされるが、すでに一年半以上にわたって日本でインドネシア語を学修し終えた者が留学した際、すでに学修した内容の復習ばかりをしても仕方がない。むしろ、留学中だからこそなし得ることを学修することで留学の成果が上がるといえよう。そこで、摂南大学とストモ博士大学の教育カリキュラムから4つのグループ、すなわち、①文法（Kelompok tata bahasa）、②表現（Kelompok wacana）、③会話（Kelompok percakapan）、④作文（Kelompok menulis）、⑤実習（Kelompok studi lapangan）に分けてみた。これらのグループごとに教育内容を検討することで、より効果的なインドネシア語学修の成果が期待できよう。

### ①文法（Kelompok tata bahasa）

摂南大学においてインドネシア語文法に関する授業は、入学後の授業開始直後から行っている。とはいえ、日本における中学・高校での英語教育内容の変化<sup>9</sup>もあってか、「形容詞」や「他動詞」、さらには「助動詞」といった用語を理解しない学生が多くなりつつある。そこで、日本の授業においては例文を多く使って、多くの品詞に接することで、品詞ごとの使い分けを理解させるよう努める必要がある。留学派遣先では、復習を兼ねながら、「Ejaan Bahasa Indonesia yang disempurnakan」を徹底的に学び、「正しいインドネシア語 Bahasa Indonesia Baku」をマスターさせるべきだと考える。

### ②表現

摂南大学では、「インドネシア語表現法」を開設し、インドネシア語と日本語のニュアンスの違いを学んでいる。とはいえ、日本で学んでいるとどうしても日本語を中心に捉える傾向にある。そこで、留学中には「Wacana」が開講され、むしろ、インドネシア語を中心として表現の違いを学ぶことになる。また、ストモ博士大学には日本語学科があるため、日本語を学びたいインドネシア人学生と接する機会が多く、学生同士で表現の違いを教え合うことがある。

### ③会話<sup>10</sup>

摂南大学においてはインドネシア人ネイティブ教員が担当する「インドネシア語コミュニケーション」が1～3年次に設けられており、会話表現の反復練習を行っている。とはいえ、特に1年次から2年次前期にかけてはイディオムをそのまま暗記する傾向にあり、「生きた言語」の修得には至っていない。また、日本人学生は受け身の姿勢で受講することが多く、自らの考えを主張する場面はあまり多くない。そこで、留学を通じて、積極性を養うと同時に、生の表現を学ぶことになる。ストモ博士大学では「Percakapan」を通じて、スムーズな会話表現を学び、さらにトピックをめぐるディスカッションを行うことで積極性を身につける。

### ④作文

摂南大学で作文を学ぶ機会はあまり多くない。言語運用能力を身につけるためには、本来で

<sup>9</sup> ここでは、英語教育の変化についての議論をする余裕はないが、戦後における英語教育の変遷については[寺沢(2014)]が参考となる。

<sup>10</sup> 日本の教育機関における会話授業についての問題点の指摘は、[森山/サフィトリ/ウマル/降幡/原(2014)]に詳しい。

あれば作文学習が最も有効な手段だと考えられるが、日本語でさえ、それほど表現力豊かに語ることはできない状態であれば、限界があることは否めない。さらに摂南大学の場合、教員スタッフの不足もあって、一人一人の作文を添削指導する余裕がない。そこで、留学派遣先では作文に力を入れている。積極性をもって会話する習慣を身につけ、それを文字で表現するという作業に挑むわけである。ストモ博士大学では、半年の留学ごとに「Penulisan Karya Ilmiah」を通じて、学生が設定したテーマに基づく研究レポートを仕上げる。その過程においてはゼミスタイルで作文の指導を受けることになる。

#### ⑤実習

摂南大学生がストモ博士大学へ留学する際は、ホームステイ生活となる。それは、「異文化を知り」、「異文化を理解」という体験を踏むことにつながる。ホストファミリーの日常に接することでインドネシアでの「あたりまえ」に直面し、自分自身の立ち位置を振り返ることにつながるであろう。留学は単に語学運用能力を高めるだけに留まらず、異文化との出会いを通じて得られるものが多い。そういった異文化体験を教育カリキュラムに組み入れるためにはどういったことが考えられるであろうか。

日本では昨今、「アクティブラーニング<sup>11</sup>」がもてはやされ、各大学の教育カリキュラムに導入されている。「アクティブラーニング」は学生の主体的な学びを指すが、その主体性は実際の現場を体験することで得られるものだと考える。そこで、留学中に可能な「アクティブラーニング」を想起してみると、ホームステイのような体験が有益だとは考えられるが、それは単なる日々の生活風景の一つに過ぎず、目的や達成度が計りづらいものであろう。摂南大学生の留学は2年次後期以後に行われ、3年次を留学に割く者が多い。帰国後、彼らは就職活動に挑むことになる。そういった留学時期や環境を鑑みると、彼らにとって就職という目標が立てやすい。そこで、異国で異文化と接しながら、目標をもって行動するとすると、就職活動にも絡められるような機会があると、有益であろう。そこで、考えられるのは就業体験である。インターンシップともよばれるそれは、言葉のやり取りを交わしながら、異文化の習慣やしきたり、あるいは社会の仕組みを容易に理解し得るであろう。それゆえ、留学派遣先の協力を得て、ホテルや企業などにおいて数週間のインターンシップを設けることで、能動的な行動が求められ、自身の主体性を確立できるのではないかと考えている。

## 6. まとめ

本稿においては、摂南大学学生によるストモ博士大学での留学を事例として、教育カリキュラムの検討を行った。昨今、大学機関においては留学制度の充実が期待され、これまでは留学提携先の数を「売り」にするような大学が多く存在していた。しかしながら、留学が「あたりまえ」のような現代になると、量よりも質の向上が求められよう。留学提携先が多ければ学生の選択の幅が広がり、自身の目標と合致した留学先を決めることができる。しかしながら、単に「留学」を語学力の向上あるいは就職活動に際しての一つの経験程度にしか考えていない学

---

<sup>11</sup> 「アクティブラーニング」は、学生の能動的な学習活動を取り入れた教育方法の総称であり、具体的な方法は、体験学習、課題解決型学習や授業でのグループワーク、ディベート、協調学習など多岐にわたるが、いずれも学生の主体的な学びの姿勢を引き出すことを主眼としている[永田/林(2016):i]。アクティブラーニングについては、[亀倉(2016)][中井編(2015)][永田/林(2016)]を参照されたい。

生が多いことも否めない、そこで、「留学」が学生のキャリア形成の一端を担えないかと考えた時、量よりも質の向上を図ることが重要であると考えた。摂南大学の場合、留学提携先はストモ博士大学のみであり、学生に選択の余地はない<sup>12</sup>。とはいえ、学生が一方向的に派遣されるのではなく、日本の大学と留学提携先の大学との教育カリキュラムの統合がなされることで、双方向的な留学のシステムが作られれば、質の向上を図ることができると思われる。

今回の事例研究を通じて、日本からインドネシアへの派遣留学だけではなく、留学という制度自体に何かしらの意義をもたらすことができればと考えている。

#### 【参考文献資料 Daftar Pustaka】

星野晶成(2014)「名古屋大学生の東南アジア留学に対する意識調査」『名古屋大学国際教育交流センター紀要』創刊号、名古屋大学国際教育交流センター。

星野晶成(2015)「日本人学生の東南アジア留学の現状とその特徴——JASSO 統計から見えてくるもの」『留学交流』第47号、日本学生支援機構。

亀倉正彦(2016)『失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング』東信堂。

森山幹弘/サフィトリ・エリアス/モハンマド・ウマル・ムスリム/降幡正志/原真由子(2014)「インドネシア語会話授業について」『インドネシア言語と文化』第20号、日本インドネシア学会。

永田敬/林一雅(2016)「はじめに」、永田敬/林一雅編『アクティブラーニングのデザイン——東京大学の新しい教養教育』東京大学出版会。

中井俊樹編(2015)『アクティブラーニング』（シリーズ 大学の教授法3）、玉川大学出版部。

佐藤由利子 (2010)『日本の留学生政策の評価——人材養成、友好促進、経済効果の視点から』東信堂。

寺沢拓敬(2014)『「なんで英語やるの？」の戦後史——《国民教育》としての英語、その伝統の成立過程』研究社。

塚本勝(2013)「大学間交流協定の現状」『IDE 現代の高等教育』第549号、IDE 大学協会。

URANO, Takao (2014) "Kemungkinan Integrasi Kurikulum antara Universitas Dr.Soetomo dan Universitas Setsunan", *Enrichment of Career by Knowledge of Language and literature II (What Should I Know about Foreign Language Acquisition?)*, Surabaya: Faculty of Letters Dr.Soetomo University in cooperation with Balai Bahasa provinsi Jawa Timur, KEMDIKBUD.

URANO, Takao (2015) "Hasil dari Penandatanganan Nota Kesepahaman (MOU) antara Perguruan Tinggi di Indonesia dengan Perguruan Tinggi di Jepang", *Enrichment of Career by Knowledge of Language and literature III (the Role of Language and Literature on the Basis of Various Cultures in Building National Character)*, Surabaya: Faculty of Letters Dr.Soetomo University in

---

<sup>12</sup> 摂南大学外国語学部は、インドネシア・マレー語専攻として、インドネシアのストモ博士大学以外にマレーシアのマレーシア国民大学(Universiti Kebangsaan Malaysia)での留学を選択することができる。とはいえ、国が異なることもあってか、留学希望の学生はインドネシアかマレーシアのいずれかをすでに選択していることが多い。生活環境の違いといえは、ストモ博士大学の場合はホームステイ、マレーシア国民大学の場合は寮生活となり、その違いによって留学先を選択する者もいる。

cooperation with Balai Bahasa provinsi Jawa Timur, KEMDIKBUD.

URANO, Takao & Cicilia Tantri Surayawati (2016) "Implementasi Kurikulum Bahasa Indonesia bagi Mahasiswa Setsunan di Universitas Setsunan dan di Universitas Dr.Soetomo, *Enrichment of Career by Knowledge of Language and literature IV (Communicating Across Cultures: the Role of Learning and Teaching of Language and Literature in the Era of ASEAN Economic Community (AEC))*, Surabaya: Faculty of Letters Dr.Soetomo University in cooperation with Balai Bahasa provinsi Jawa Timur, KEMDIKBUD.

浦野崇央/山口真佐夫編(2012a)『インドネシア語単語集 (2000 単語) <第 2 版>』摂南大学外国語学部。

浦野崇央/山口真佐夫編(2012b)『総合インドネシア語 (第 3 版)』摂南大学外国語学部。

浦野崇央/山口真佐夫編(2015)『インドネシア語入門 (第 4 版)』摂南大学外国語学部。